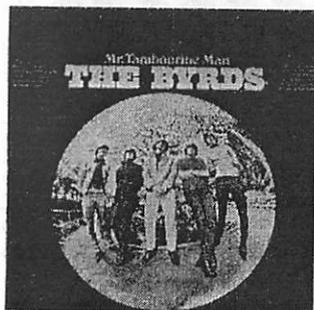


バースが「ミスター・タンプリンマン」をレコーディングするまでロックとフォークはまったく別の音楽だった。と「ビルボードNo1ヒット」の著者フレッド・ブロンソンが言った。なんていい言葉なんだろう！本当なんです。う〜ん、ひょっとしたらジャケット写真からそのことが分かってもらえるかも？プリティッシュ・インページョンに対するアメリカ側の応酬の年が1965年。ビートルズ一派の余波をかぶって陰りが見え始めたが、当時のモダン・フォークの最高峰は何といってもPPM。同年発表、通算5枚目「ア・ソング・ウィル・ライズ（歌声は永遠に）」は5月に最高8位、通算26週間のトップ40チャートイン。一方、バースのデビューは同名アルバムで7月に最高6位、チャートは4週間。両者同じ誌面に載った時期があったはずである。グリニッチ・ビレッジの方や超人気トリオ。方やチャド・ミッチェル・トリオやジュディ・コリンズのバックでギターを弾いていた職人J。マッギンはニューヨークでの既成の秩序から逃れて、新天地L・Aに逃げ出した。前年夏公開のビートルズ映画「ア・ハード・デイズ・ナイト」の影響があったといわれるが、緑と太陽溢れる西海岸の若者やミュージシャンに、ある意味での人間解放を見たのではなからうか。気品溢れる微笑みと精神的絆を点描画風の中に感じさせるジャケットのPPMは「イン・コンサート」に続いて迷わず購入した当時の愛聴盤だった。しかしエレキ・ブームの盛り上がるラジオの影響か、とうとう当時の不良音楽に手をつけてしまった。プロダクションの落とし子と言ってしまうえばそれまでだが、ふてぶてしい態度、長髪、ブーツから想像される音楽は耳を塞くような音量の中にもキチンとフォークの伝統を受け継いだ今もなお必聴名盤なのである。ビート・ブームの最中、あまりにも個性が確立してしまっていたPPMがエレキを導入したのは2年先のこと、しかし激動の「時代は変わる」、ロック隆盛の勢いには時既に遅してあった。



バース「ミスター・タンプリンマン」1965 PPM「ア・ソング・ウィル・ライズ」1965

トークアバウト...とは、1...の話なら、1...っていえばから「最高の...!」とか「すごい...!」という意味に転じる はなし言葉です。文化の様々な面について考えている建築家を中心とする方々のエッセイ、いずれはきっと建築設計と結び付く「とっておきの話」となることでしょう

年間購読実費 2000円 郵便振替口座 00930-1-59288 加入者名 トークアバウト

平成12年5月号

2000年5月29日発行

JIA近畿支部住宅部会

代表世話人 小南一郎

エッセイ委員長 星野康彦

編集長 市居博

### 執筆者連絡先

- 市居博 (いちい・ひろし) 市居総合計画事務所・芦屋市船戸町9-7 TEL 0797-32-8554
- 彼末れい子 (かれすえ・れいこ) 坂倉建築研究所/橋本健治・大阪市西区京町堀1-15-7 TEL 06-6443-0021
- 橋本修英 (はしもと・しゅうえい) アーキテック・芦屋市大原町28-1バルティ芦屋4F TEL 0797-22-9082
- 星野康彦 (ほしの・やすひこ) 寺崎興発建築士事務所・大阪市阿倍野区阪南町テラスキビル TEL 06-6622-8627